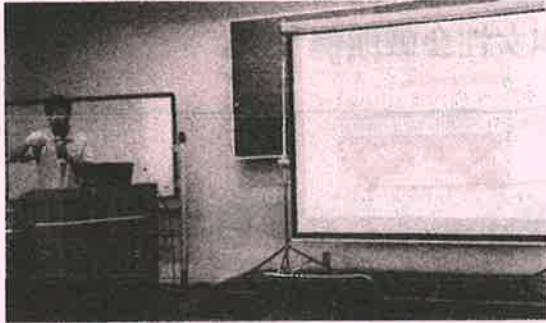


家庭・子どもを孤立させない保育所等の取り組みについて

きづかう・しりあう・やってみる ～地域共生社会の実現にむけて～

幼保連携型こども園明照保育園 園長 中島章裕氏



中島園長の話を聞いて

保育園の取り組みは、ユニークで、熱くて優しい気持ちが伝わる運営でした。

お話を聞いて驚いたことは、貧困だけでなく、子育てに孤独を感じる母親7割、産後うつは一般のうつの5倍以上ということです。

私自身の子育ての時の環境と比べれば、「寛容」だった時代と比べ、今はぎすぎすして、心に余裕がないと思いました。

感動したことは、子ども食堂です。7人に一人の貧困という悲しい現実。子ども食堂は孤食の解消、貧困対策に、また、子どもたちの第三の居場所として、よいと思います。1週間に1回ぐらいだそうです。これからも続けてほしい、そして、このような子ども食堂が増えるといいなと思いました。

また、この保育園は、「勝手に公開保育」、斬新で、門が開いていることが、とてもよかったです。

（報告：曾田）

今年度の研修会を企画して

今年は「子どもの権利条約」ができて30年、日本が批准して25年の節目の年。そこで私の強い希望もあり、今年は「子どもの貧困」をテーマに研修会を行いました。1回目のこども未来政策課による「豊橋の子どもの貧困事情」では、今の豊橋の子どもの現状を知る事ができました。それを会員さんが自分の身近な事に置き換えて、意見や質問をして有意義な時間になりました。

そして2回目は明照保育園の中島先生が、地域で実際に行っている取り組みについて教えてくださいました。クイズに始まり、終始楽しい盛りだくさんの講演。私だけでなく、参加した皆さんが心を動かされたと思います。みんなでつながって子どものことを考え、とりあえず『やってみる』そんな勇気をもたらえる時間でした。

最後に峠田さんが「私に出来ることから何か始めたい！」と言って締めてくれ、とても嬉しかったです。（江坂）

写真上：講演中の中島園長 下：市民協働推進課の皆さんと。